

地域とともに。
みどりの銀行のイーハトーヴ宣言!

地域のみなさまの心の中には、それぞれ思い描く「理想のいわて・東北」があると思います。私たちは、現実の「岩手・東北」のなかでその理想が少しでも形を成すことができるよう行動していきたいと考えています。コーポレートカラーが「みどり」の岩手銀行が掲げた「みどりの銀行のイーハトーヴ宣言」には、そうした決意が込められています。

今後も、地域のみなさまとの積極的なコミュニケーションを通じて地域社会の持続的発展に貢献し、地域のみなさまが思い描く「理想のいわて・東北」が現実のものとなるよう日々努力してまいりますので、一層のご愛顧をよろしくご願ひ申し上げます。

平成26年6月発行

株式会社 **岩手銀行** 総合企画部 広報CSR室

〒020-8688 盛岡市中央通一丁目2番3号

TEL 019-623-1111 (代表)

<http://www.iwatebank.co.jp/>



いわぎん レポート

岩手銀行ディスクロージャー誌 (情報編)

2014

The Bank of Iwate, Ltd.
Report 2014

岩手ビッグブルズ沿岸復興祈念試合協賛

届け! 元気・夢・希望!!



© IWATE BIGBULLS/bj-league

ご自由にお持ち帰りください

岩手銀行
The Bank of Iwate, Ltd.



平素より、私ども岩手銀行をご利用、お引き立ていただき、誠にありがとうございます。この度、当行に対するご理解を一層深めていただくため、「いわぎんレポート」を作成いたしました。本誌では、地域社会の活性化に向けた取組みや当行の現況などをより分かりやすくご紹介しております。

さて、当行では、昨年4月より中期経営計画「いわぎんフロンティアプラン～復興と創造、豊かな未来へ～」を推進しております。本計画は、「地域社会活性化への積極的な貢献」「収益力強化に向けた組織と収益構造の改革」「CS活動の強化と人材の育成」の3つを基本方針とし、地域の復興を強力に支援することはもちろん、次世代を支える新たな産業の育成・振興に注力することで、地域経済の復興・発展に積極的に取り組んでいくこととしております。具体的には、昨年11月に立ち上げた「いわて新事業創造プラットフォーム形成協議会」をてこに岩手県内で起業家を育成する事業を展開しているほか、お客さまの海外での事業展開をサポートするため、海外の銀行との業務提携による資金調達ニーズへの対応を図るなど様々な活動を行っており、今回の情報編において一部紹介しております。ご高覧のうえ、当行をさらにご理解いただければ幸いに存じます。

平成25年度は、中期経営計画の推進に役職員一丸となって取り組んだ結果、当初の計画を上回る利益水準を確保することができましたが、2年目となる平成26年度も計画の完遂に向けてひたむきにスピード感をもって取り組んでいきたいと考えております。

今後も、地域の皆さまから信頼され選ばれる銀行を目指し、役職員一同全力を傾注してまいりますので、一層のご支援、ご愛顧を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成26年6月

代表取締役会長

高橋 真裕

代表取締役頭取

田口 幸雄

目次 contents

ごあいさつ	1
届け! 元気・夢・希望!!	2
いわて新事業創造プラットフォーム形成協議会	6
いわてを売り込め!	8
いわぎんToday	10
CSRインフォ	12
「赤レンガ」通信	14
支店紹介	15
業績トピックス	16
店舗一覧	20
店舗外ATM	21

銀行法施行規則等で規定された開示項目は、後日発行いたします「いわぎんレポート2014(資料編)」をご参照ください。

岩手ビッグブルズ沿岸復興祈念試合 に沿岸地域の子どもたち251名を招待しました。

岩手銀行は、岩手ビッグブルズの「子どもたちがプロスポーツを観戦することで、未来への展望と新たな活力を持って欲しい」という趣旨に賛同し、2月22・23日に宮古市民総合体育館で開催された岩手ビッグブルズのホームゲームとなる沿岸復興祈念試合に協賛、沿岸地域のミニバスケットボールチームに所属する子どもたち251名を招待しました。両日とも、手に汗を握る試合が繰り広げられ、観戦した子どもたちも元気いっぱい応援し、体育館は熱気に包まれました。



招待した沿岸地域のミニバスケットボールチームに所属する子どもたちです!



岩手の子どもたちへ

～沿岸復興祈念試合を振り返って 岩手ビッグブルズインタビュー～

簡単にあきらめない。自ら考え行動する。

「東日本大震災のときは沖縄にいましたが、被災した地域の力になりたいとずっと思っていました。何かできることはないかと考えているとき、ビッグブルズからオファーをいただき、岩手の人たちに元気になってもらえるならとお受けしました。実際に来てみると、岩手の人たちは震災に負けず力強く生きている。私自身、教えられることが多いと感じています。

宮古での試合も、本当に盛り上がりました。試合開始してすぐに会場には一体感が生まれ、こちらが感動させられました。劇的な逆転勝利となりましたが、私たちは『簡単にあきらめてはいけない』ということ岩手の人たちに教えてもらっています。勝つことはもちろん大切ですが、最後まであきらめずに戦う姿を見ていただきたいですね。

また、私はいつも選手たちには、自ら考え行動する人間になるよう指導しています。うまくなることより大切なことがある。そこに気づくと、自ずとスキルも上がっていくと考えるからです。とくに子どもたちには、そうした私の考えも、戦う選手の姿から感じてほしいと思っています。これからも地域にとってプラスになる存在となって、盛り上げていきたいと思っています」



岩手ビッグブルズ ヘッドコーチ **おけたに だい 大さん**
 1977年京都府生まれ。琉球ゴールデンキングスのヘッドコーチとして、2008-09シーズンに初優勝、最優秀コーチ賞を受賞。2011-12シーズンに二度目の優勝を果たす。2012年6月、岩手ビッグブルズのヘッドコーチに就任。



やまもとよしあき **山本吉昭選手** 1982年滝沢市生まれ。背番号13

ちばしんや **千葉慎也選手** 1987年奥州市生まれ。背番号5

おの だんしょうた **小野寺祥太選手** 1994年一関市生まれ。背番号34

身近な目標にして欲しい

そして、招待した沿岸地域の子どもたちにメッセージを、とお願いと、「試合を見てもらい、目標にしてもらえたら……。とにかく楽しくバスケットに取り組んでください」と千葉選手。最年少の小野寺選手は「自分は高校卒業後、練習生を経てプロになりました。そういう道があることを知って欲しいです」と、子どもたちの夢が広がるようなコメントをくれました。そして、山本選手は「一生懸命続けていくことが大事だと考えています。楽天イーグルスは9年間がんばり続け、あれだけの感動を与えてくれました。目指すところは、私たちも同じです。岩手に優勝を持って来られるまで、がんばり続けます」と力強く宣言。3選手の目は子どもたちの夢と希望をつなぐという使命感に燃えていました。



宮古で負けたくない

岩手を熱くしてくれるビッグブルズの選手たちの中でも、とくに地元愛にあふれているのが 山本吉昭選手、千葉慎也選手、小野寺祥太選手。3人は岩手出身で、県立盛岡南高等学校の先輩・後輩です。沿岸の子どもたちの前で行われた、復興祈念試合を振り返ってもらいました。

山本選手は「宮古に行くときは『負けられないぞ』と、練習のときから気持ちを入れ直します」と話します。被災した沿岸地域の子どもたちに元気を届けたい。そのため、ふだんよりもっと気合が入るのだそうです。「沿岸で行う試合は宮古での1回だけなので、気持ちの入り方が全然違います」と、千葉選手。小野寺選手も「バスケットクリニックで指導したチームの子どもたちが来るので、活躍する姿を見せたいと思っていました」と話し、復興祈念試合に向けた意気込みの強さを感じさせました。



当行が企画した初のボランティア活動です！



岩手ビッグブルズの試合をサポートしました！

沿岸復興祈念試合では、岩手銀行バスケットボール同好会がボランティアとして試合をサポート。会場の案内、物販、コート整備などを行いました。ボランティアも応援する子どもたちも、心はひとつ。ビッグブルズの勝利を祈っていました。





起業・創業の力になりたい



株式会社エルテス
代表取締役
すがわら たかひろ
菅原 貴弘さん



岩手銀行地域サポート部
地域開発・情報・ソリューション営業グループ
(現北上支店支店長代理)
おかいち かずゆき
岡市 和幸

株式会社エルテス代表取締役の菅原貴弘さんは、岩手県紫波町出身。東京大学在学中の平成16年(2004年)に起業、平成19年にネット上の誹謗中傷や風評被害対策で業務を拡大。同社は現在、Webリスクマネジメントのトップ企業となっています。今回、いわて新事業創造プラットフォーム形成協議会の事業展開にあたり、首都圏で活躍する岩手県出身の起業家として、2月に開催された「異業種交流会in盛岡」で講師を務めていただきました。

いわて新事業創造プラットフォーム形成協議会は、岩手の未来を担う起業や創業を支援することを目的に平成25年11月に当行、学校法人龍澤学園および辻・本郷税理士法人の3社で立ち上げ、復興庁の「新しい東北」先導モデル事業として採択を受けた事業です。

本事業を担当する地域サポート部の岡市和幸行員(現北上支店支店長代理)は「岩手の中で良い人材をプールし、起業したいという人を育てていきたい。そのためにベンチャーキャピタルという資金を供給する仕組みを立ち上げ、支援していく。つまり、受け皿と同時

に支援の体制を作るのが具体的な目的です。ですので、まずは人材育成という観点から菅原社長に講師を依頼しました」と説明します。

「もともと岩手には創業社長が少ないんです。私も、祖母から新しいことを始めて家や財産を失うなという意味で『カマドを返すな』と言われ続けました。そういう文化を変えるところから、起業家は育ってくるのだと思います」と菅原さんは岩手県民の気質に言及。それでも、「東京を目指すのではなく、ここで起業家を育てるというコンセンサスが得られれば、強い人が育つのではないのでしょうか。私自身、人との出会いが、自分のモチベーションになっています。どうしたら日本が良くなるか、地域の活力を生み出すにはどうしたらいいのか。そういうことを考えながら、事業を展開し、いずれは地域に貢献したいと思っていましたので、いわげんさんとともに岩手で起業家の後押しをしていきたいです」と語っていただきました。

「起業した方々の会話には、新しいアイデアや売り方などが、どんどん出てきます。自分とはもすると固まった考えになりがちなので、とても刺激を受けます。菅原社長の力も借りて、良い仕組みを作りたいと思います」と意気込みを語る岡市行員。岩手から大きく羽ばたく起業家の誕生を夢みます。



異業種交流会を開催

平成26年2月、「いわて新事業創造プラットフォーム形成協議会」の取組みとして、起業・創業を目指す企業等の交流の場である「異業種交流会」が盛岡・宮古・釜石・大船渡の4会場で開催されました。

盛岡会場では、ベンチャービジネスの第一線で活躍中の学校法人新潟総合学園総長の池田弘さんと、株式会社エルテス代表取締役の菅原貴弘さんを招き、それぞれ創業への支援と起業について、自身の経験を交えて講演していただきました。

参加者の声

株式会社IREC 西館社長

2月に不動産の会社を起業したばかりです。今回は成功例や実際の起業家の話を聞くことができ、有意義でした。事業に関して、従業員などの管理面が大事だということに気づけた点が大きいです。菅原社長のプレゼンテーション力も、とても参考になりました。

株式会社デジアイズ 大山新規事業部部長

産直施設にPOSシステムなどを納入しています。現在、異業種間で連携して6次産業化の推進による地域活性化を考えており、こうした交流会を通じて単なるものづくりから一歩進んだ地元の新しい価値づくりをしていきたいと思い参加しました。



いわてを
売り込め！

リエゾン-I

【いわて産学連携推進協議会】

岩手の元気を育てる企業をサポート



マイクロ歯車を使った世界初のペン型電動ピペット。同社初の自社ブランド商品。



第11回リエゾン-Iの育成資金の対象となった、災害現場で使用可能な自動輸液装置。



マイクロ歯車は、カメラのレンズに使われています。

株式会社アイカムス・ラボ
代表取締役
かたの けいじ
片野 圭二さん



地域産業の活性化を支援

株式会社アイカムス・ラボは、第1回リエゾン-I 研究開発事業化育成資金を受けた企業の1社。プラスチック製で超小型のマイクロ歯車の研究開発に対して贈られました。そのマイクロ歯車は一眼レフカメラのオートフォーカス機能の部品や、ペン型電動ピペットの製品を生むなど、オンリーワン技術の原点となりました。

岩手銀行は、大学のシーズ(新たな技術など)と企業のニーズをマッチングさせることにより新事業の創出を図ることを目的に設立された、「いわて産学連携推進協議会(リエゾン-I)」の事務局(金融機関側)を運営しています。設立から10年を経て、現在は当行を含む3つの金融機関と岩手大学や県立大学など、県内の10研究機関が参画し、岩手全体で地域の活力を生むための事業を展開しています。

本事業を担当する地域サポート部の吉田智明副調査役は、「リエゾン-I 育成資金は、事業化への道筋を作るための呼び水としての役割を担っています。地域産業の活性化をお手伝いし、お客さまとともにリエゾン-Iの活動も発展させていきたいです」と意欲を見せています。

リエゾン-I 育成資金について片野圭二社長は、「他の助成金などと比べても、使い方の自由度が高いのが魅力です。マーケティングや営業、試作など、必要とするところに随時使っていけるのでありがたいです」と話します。

岩手銀行地域サポート部
地域開発・情報・
ソリューション営業グループ
よしだ ともあき
吉田 智明 副調査役



岩手から新たな製品を提案

また、今回の第11回リエゾン-I 育成資金では、その高い技術を活かし、災害現場などでもスタンドを使わずに点滴ができる自動輸液装置を開発するという事業計画が認められました。岩手医科大学や岩手大学と共同開発を進めており、試作品が完成。現在は、商品化に向けて、さらなる研究を重ねています。

岩手で研究開発を行い、独自性を発揮した新商品を作っていきたいという片野社長。「今後は、日本の成長産業である医療やライフサイエンスの分野において、当社の小型精密技術を活かした、新たな製品の提案に注力していきたいと考えています。そして、近い将来、岩手の重点産業に発展するよう貢献していきたいですね」と、さらに先を見つめます。

企業の成長は、雇用を生み、地域経済の活性化を促します。当行はこれからも、岩手の「ものづくり」を支援していきます。

第11回リエゾン-I育成資金の贈呈式を行いました

いわて産学連携推進協議会(リエゾン-I)が基幹事業として取り組んでいるのが、事業の多角化や新しいビジネスの創出を目指す、将来性のある企業への育成資金の贈呈です。今年2月には、「第11回リエゾン-I 研究開発事業化育成資金」の贈呈式を行い、北上市や大船渡市などの11社に1,300万円を贈りました。

リエゾン-I 育成資金の贈呈先数金額は、これまでのべ70社、9,400万円となりました。



平舘支店×国際業務室
岩手から海外へ。
そのお手伝いをします。



タイの現地法人



フィリピン工場



チャレンジ精神を感じる

株式会社 ミクロトップ
代表取締役
かどわき みのる
門脇 稔さん
岩井行員の行動力にも感服。
若い人に伸びて行って欲しいですね。



当行も貴重な体験

岩手銀行平舘支店 融資・渉外
グループ
いわい ひでゆき
岩井 英之
門脇社長は即断即決の人。
スピード感の大切さを学びました。
これからも、良い情報をもって
お訪ねしたいと思います。

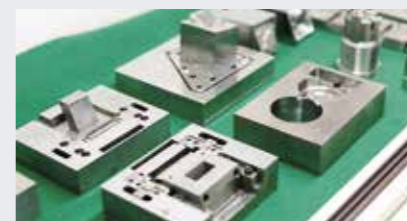
現地での資金調達を支援

株式会社ミクロトップは、岩手県八幡平市に本社を置く超精密金型の製造メーカーで、タイやフィリピンでも事業を展開しています。同社のタイ現地法人がタイのバンコック銀行から現地通貨のパーツ建てで借入れを行うにあたり、岩手銀行がお手伝いをするようになりました。それが、「スタンドバイ・クレジット(信用状)」の発行で、パーツ建てでは当初の取組みとなりました。

当行平舘支店は、同社が平成5年(1993年)に創業して以来のお付き合い。平成25年4月、平舘支店に着任した岩井英之行員は、「私自身、『当初』という、挑戦できる仕事が好き。ぜひチャレンジしたいと思い、すでにフィリピンで資金調達がなされたことがあるときいていたミクロトップさんへ提案しました」と振り返ります。同社門脇稔社長も「とても良いタイミングで提案を持ってきてくれたことを思い出します」と応えます。

支店と国際業務室が連携

「タイとは商習慣も違いますし、時差の問題もある。専門部署との連携が必要で、国際業務室にはいろいろと相談させていただきました」と岩井行員。「いわぎんさんは支店も本部も動きが本当に早かった。海外業務など、新しいことに取組もうという、岩手銀行全体のチャレンジ性と勢いを感じ、私も刺激を受けました。今後、岩手のものづくりがさらに伸びていくよう、つくり手の私たちも頑張っていきます」と門脇社長。地元でのリレーションが海外に広がっていく、そんな「当初」の取組みでした。



支店をバックアップし
的確なサポートを

岩手銀行市場金融部
国際業務室
たかづる
佐々木 孝浩
室長代理



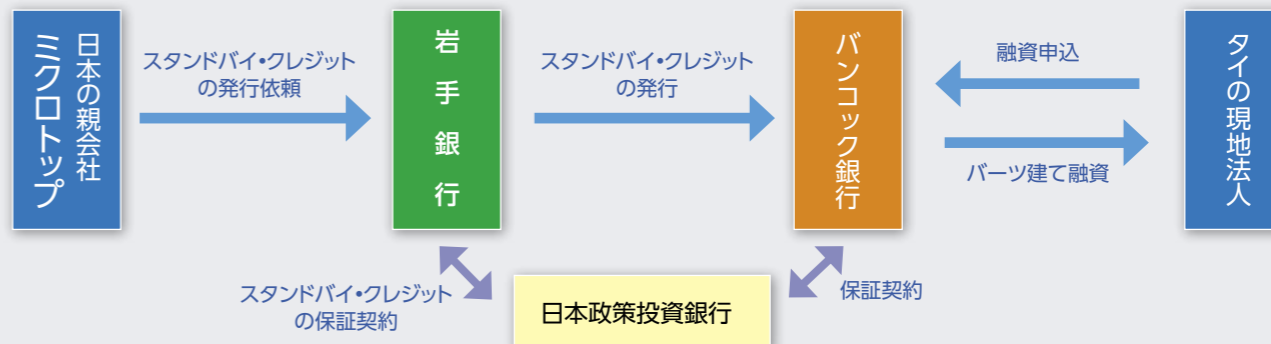
成長を続ける東南アジアをはじめ、海外市場を取り込んでいかなければ、事業の拡大は厳しい時代です。そのため岩手の企業も、海外に販路を求めようになってきました。

ミクロトップ社については、支店からの情報をもとに、パーツ建てでは当初として初めてスタンドバイ・クレジット(信用状)に取組むこととなりました。お客さまが手続きを円滑に進められることを第一に、タイの担当者と電話やメールでもやりとりを行いました。

今後は、お客さまの関心を高めながら新たなニーズを掘り起こすとともに、情報収集を行い、各支店と連携し海外進出を考える企業に対して、的確にサポートしていきたいと考えています。



本件のスキームの概略図





金銭基礎教育プログラム MoneyConnection® 金融教育 in 岩手県立大槌高等学校

平成26年2月18日

岩手銀行は2月18日、岩手県立大槌高等学校の生徒72人に向けて、金銭基礎教育プログラム「Money Connection®」を開催しました。

このプログラムは、平成18年（2006年）に株式会社新生銀行の連結子会社新生フィナンシャル株式会社と特定非営利活動法人育て上げネットが共同で開発。若年層のニート化の予防を目的として、主に高校生を対象に「お金と仕事」をテーマにしたワークショップ形式で約50分間の授業を行い、将来について考える機会を提供するものです。

今後も講師として認定を受けた当行行員が、県内各地の高校などで本プログラムを実施していきます。

お問い合わせは ● 広報CSR室 (019-624-8212) まで



若い世代の「豊かなころ」を育む活動のひとつとして、金融教育活動に力を入れています。



ご当地ヒーロー 「鉄神ガンライザー」 TV番組で 金融教育ミニコーナー

低年齢向けの金融教育活動として、ご当地ヒーロー「鉄神ガンライザー」が登場する子ども番組において、1分間の金融教育ミニコーナーを放映しています。親子で楽しみながら、ご覧ください。



鉄神ガンライザーが登場するキャラクターたちが、お金にまつわるいろいろなことを教えてくれます。



©TVI



26年4月からは、お金に関する豆知識を学ぶコーナーとしてリニューアルしました。



©TVI

テレビ岩手 子ども向け番組「らどんぼ!」
● 毎週日曜 朝 7:00~7:30
● 毎週月曜 (再放送) 夕方 3:55~4:25

旧中ノ橋支店、通称「赤レンガ」は国の重要文化財。その建物を立体化して身近に飾っておけるのが、盛岡市の株式会社平金商店が開発したペーパークラフトです。147分の1の縮尺で模型化し、昨年10月に発売。盛岡城の天守閣に続く、第2弾となりました。

開発を担当した遠畑賢一さんは、「文具店である当社の価値を高めたいと考え、クリアホルダーなどのオリジナル商品を作ってきました。その中で、ペーパークラフトというアイデアが生まれました。第1弾の盛岡城が好評だったことから、次は盛岡の観光名所でもあり、シンボリックな建物である『赤レンガ』を採用し、周辺地域の活性化にもつなげたいと考えました」と、商品誕生のいきさつを話します。

ペーパークラフトは、10枚の型紙で構成され、それぞれに屋根や壁面の展開図が印刷されています。「いわぎんさんに残る写真や図面から設計図を起こし、何度も色を見直しました。レンガの部分も1色ではなく、濃淡を組み合わせるなど、できるだけリアルな感じを目指しました」と遠畑さん。作り応えがある一方で、難し過ぎないように工夫したそうです。

完成したペーパークラフトは、建物の歴史と風格を感じさせる仕上がり。「赤レンガには本当に親しみがあります。街の歴史とともにある建物なので、ぜひみなさんに作ってもらって赤レンガの魅力を身近で感じてもらいたいですね」と話す遠畑さんの言葉からは、赤レンガに対する熱い気持ちが伝わってくるようでした。

ペーパークラフト
重要文化財 岩手銀行(旧盛岡銀行)旧本店本館

1個864円。うち50円が寄付金として岩手県の災害復旧等の財源に充てられます。ペーパークラフトに関するお問い合わせは下記まで。

平金商店 パステル館
盛岡市中ノ橋通1-6-8
ななっく4階
TEL 019-652-2881



株式会社 平金商店 事業開発部長
とおはた けんいち
遠畑 賢一さん



「これからも二戸支店の行員みんなで、地域の役に立てたら」と、業務に動んでいます。

今年の冬、二戸市は冬季オリンピックの話題で盛り上がっていました。同市出身でカーリング女子日本代表となった苫米地美智子選手の活躍に、市民の注目が集まっていたのです。

「カーリングの話題で、お客さまと話が弾みました」と振り返る、東森恵美子行員。自身も支店の仲間とともにパブリックビューイングに参加し、地元の人たちと一緒に応援しました。

東森行員は投資信託など預り資産担当として渉外活動を中心に活躍中です。「金融機関は地域づくりにおいて重要な役割を担っていると思います。地元の方々と手を取り合い、仕事を通じて岩手の役に立ちたいです」と力を込めて話します。

将来は、あの人に相談したら、いろいろ教えてもらえるだろうと頼りにされる行員になるのが目標。「お客さまに助けられながらやってきて、現在があります。職場の人たちにも育てられました」という東森行員。恩返しを胸に、いっそう充実した仕事でお客さまの期待に応えます。



担当地域が広いので、車を運転して出かけることも。



制服の胸にバッジを付け、苫米地選手を応援しました。



岩手銀行二戸支店
028-6101 二戸市福岡字上町14-1
TEL 0195-23-2125

「必要としてくださるお客さまのために」と、お取引先を訪ねる東森恵美子行員。



地域づくりを
お客さまとともに。



〈岩手銀行二戸支店〉

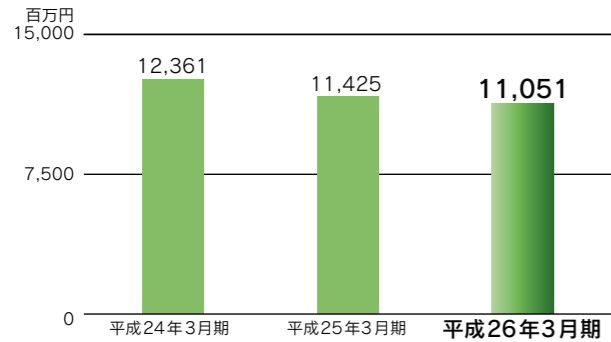
業績トピックス

●諸計数は原則として単位未満を切り捨てております。●構成比は100に調整しております。

主要な指標の推移

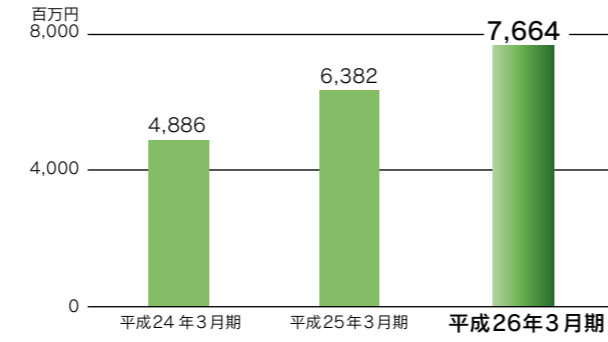
コア業務純益

コア業務純益は、役務取引等利益が増加したものの、資金利益が利回りの低下により減少したことなどから、前年同期対比3億円減少の110億円となりました。



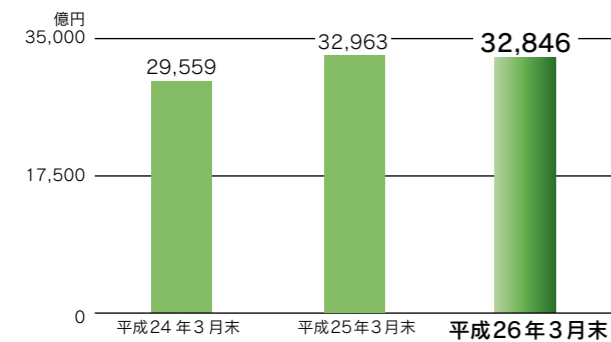
当期純利益

コア業務純益が減少したものの、与信費用が減少し貸倒引当金戻入益を計上したことなどから、当期純利益は前年同期対比12億円増益の76億円となりました。



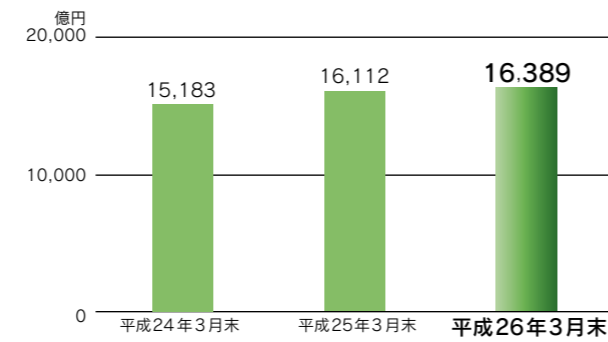
預金等残高

平成26年3月末の預金等残高は、公金預金の減少を主因として、前期末対比117億円(0.3%)減少し、期末残高は3兆2,846億円となりました。



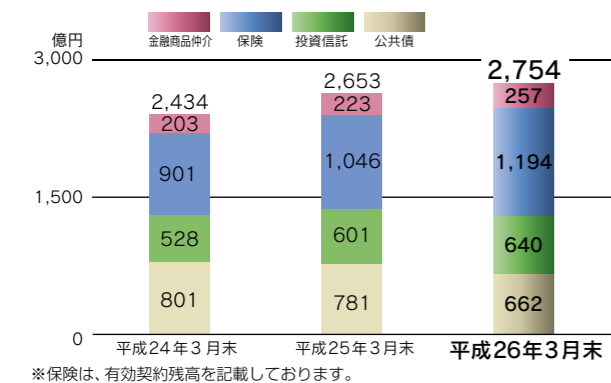
貸出金残高

平成26年3月末の貸出金残高は、個人向け貸出および地方公共団体向け貸出が増加したことから、前期末対比277億円(1.7%)増加し、期末残高は1兆6,389億円となりました。



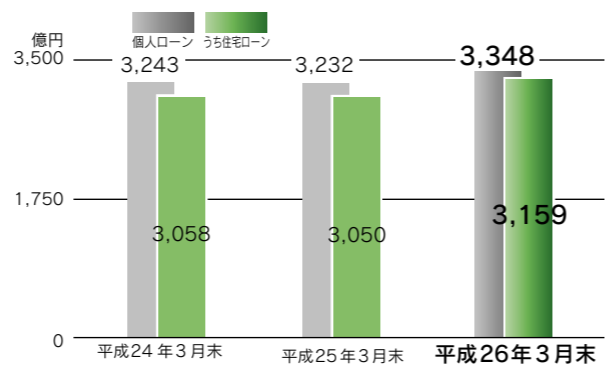
預り資産残高

投資信託および保険の販売が堅調に推移したことなどから、前期末対比101億円増加し、期末残高は2,754億円となりました。



個人ローン残高

住宅ローン残高が前期末対比109億円(3.5%)増加したことから、総体の個人ローン期末残高は3,348億円となりました。

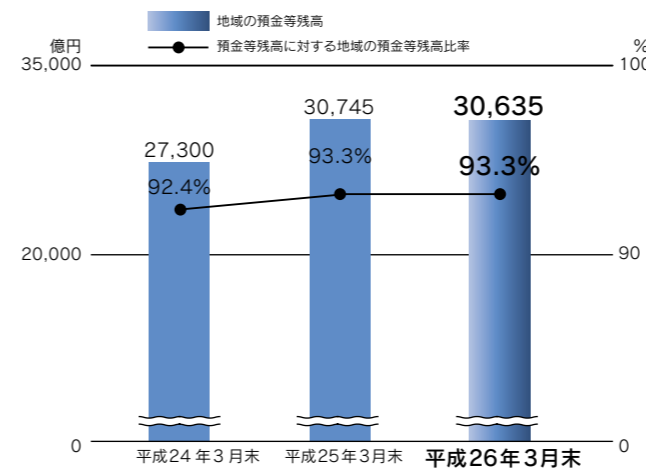


「地域」の定義

当行にとっての「地域」とは、当行の主要な営業基盤である「岩手県」を指しています。なお、県内向け預貸金等各種記載計数につきましては、岩手県内各店舗の合計数値としています。

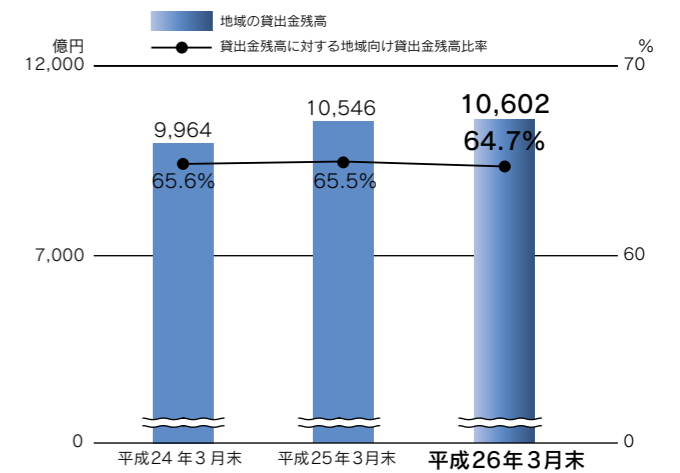
地域の預金等残高の推移

平成26年3月末の地域の預金等残高は3兆635億円で、預金等全体の9割以上を地域のお客さまからお預かりしています。



地域向け貸出金残高の推移

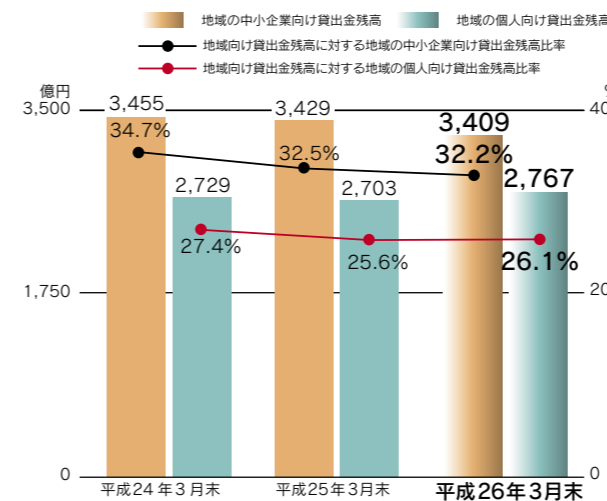
平成26年3月末の地域向け貸出金残高は1兆602億円で、総貸出金に占める割合は64.7%となっています。



地域の中小企業向けおよび個人向け貸出金残高の推移

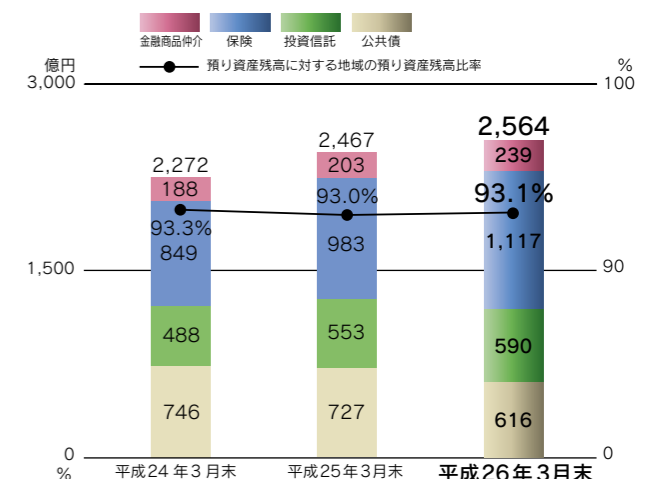
平成26年3月末の地域の中小企業向け貸出金残高は3,409億円、地域の個人向け貸出金残高は2,767億円で、地域向け貸出金残高に占める割合はそれぞれ32.2%、26.1%となっています。

※「中小企業向け貸出金」は、中小企業および個人事業主向けの貸出金を指します。



地域の預り資産残高の推移

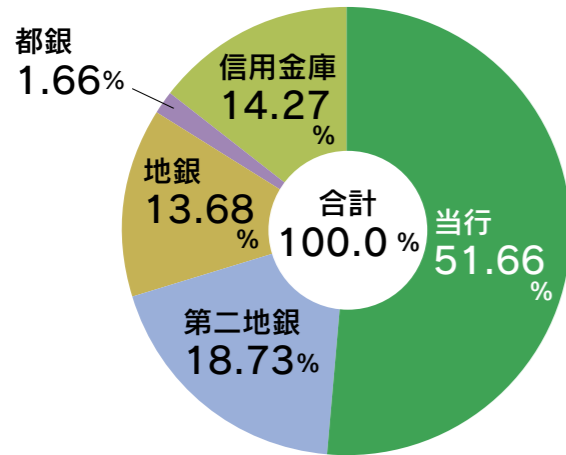
平成26年3月末の地域の預り資産残高は2,564億円で、預り資産全体の9割以上を地域のお客さまからのお取扱いで占めています。



業績トピックス

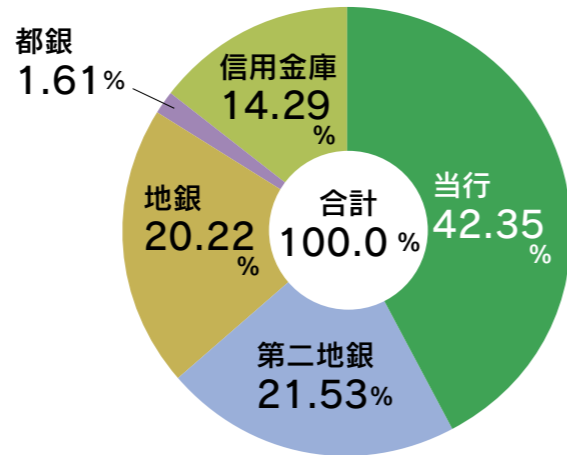
県内預金等シェア

平成25年9月中平均残高ベース



県内貸出金シェア

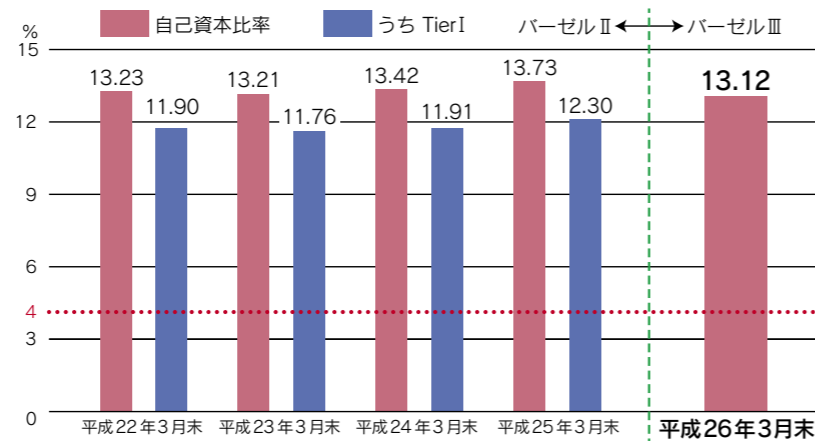
平成25年9月中平均残高ベース



岩手県内における当行の預金等・貸出金シェアは、県内の地銀、第二地銀、都銀、信用金庫のなかでトップとなっています。
(注)県内シェアは、国内銀行(ゆうちょ銀行を除く)および信用金庫による割合です。

自己資本比率

自己資本比率は平成26年3月期より新基準(バーゼルⅢ)で算出しております。平成26年3月末の単体自己資本比率は、13.12%となり、引き続き高い水準を維持しております。



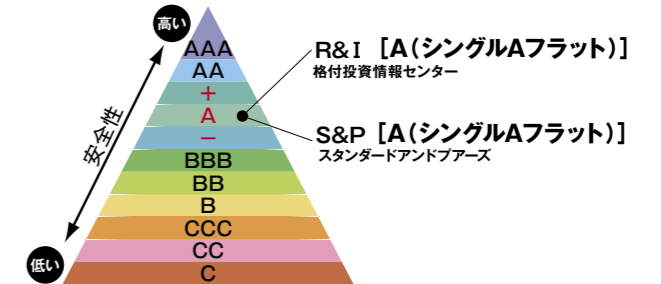
用語のご説明

<自己資本比率>

信用の程度に応じてウェイト付けした資産および事務事故、システム障害等で損失が発生する可能性のある金額の合計(リスクアセット)に対する自己資本の割合です。この比率が高いほど不良債権処理等に対する備えが充実していることを示し、当行のような国内支店だけの銀行は4%以上の基準を維持する必要があります。

格付け

「格付け」とは、企業の債務履行能力を第三者である格付機関が客観的に評価し、その結果を簡単な記号で表したものです。当行は国内外の2社の格付機関から「格付け」を取得していますが、双方から安全性を高く評価されています。



金融再生法開示債権の保全状況

(平成26年3月末)

	貸出金等の残高(A)	割合	保全額(B)			保全率(B/A)
			担保・保証等	貸倒引当金	貸倒引当金	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	11,073	0.67	11,073	6,901	4,171	100.0
危険債権	21,486	1.30	18,473	17,054	1,419	85.9
要管理債権	8,244	0.50	3,260	3,015	244	39.5
小計	40,804	2.47	32,807	26,971	5,835	80.4
正常債権	1,608,920	97.53	-	-	-	-
合計	1,649,724	100.00	-	-	-	-

金融再生法開示債権残高の推移

